

## 八潮新校基本計画検討委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年5月16日（火） 午後3時開会  
午後4時35分終了
- 2 会 場 県立八潮南高等学校大会議室
- 3 出席委員 栗藤委員長、古川副委員長、澤田副委員長、秋田谷委員、齋藤（八）委員、土谷委員、永江委員、親里委員、齊藤（央）委員、鹿野委員、落合（真）委員、落合（範）委員、三澤委員、白澤委員、中阪委員、中田委員、藤倉委員、佐野委員、山田委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本

### 5 協 議 「八潮新校基本計画骨子（案）」について

栗藤委員長 前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、御意見を伺いました。後ほど、参考資料3の新校基本計画検討委員会議事録、また参考資料4の新校準備委員会議事録を参照ください。今回は事務局にて、両校で検討した案を踏まえ、検討し作成した骨子案を「資料1」としています。それでは、「資料1 八潮新校基本計画骨子（案）」の説明を事務局からお願いします。ボリュームがありますので、パートに分けて説明をお願いします。

事務局 （八潮新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

栗藤委員長 他の委員会でも時間を掛けて議論をしている箇所でもあります。事務局としても案として出しておりますので、様々なアイデアをいただければと思います。

永江委員 探究という言葉がいるのでしょうか。ビジネス科ではまずいのでしょうか。また、ここ数年の入試の状況を見ますと、商業科で倍率が出ていますのは上尾高校の商業科くらいです。他は軒並み1.0倍を超えていない状況が続いている中で、普通科3、商業科3は厳しいのかなと感じます。普通科4、商業科2ですと、教員の配置が難しくなるという問題も出てきますのでうーんという感じがします。

事務局 ビジネス科という学科名は全国的に見ても、商業科に代わり一番多く使われています。事務局としましては、実施方策において、株式会社の設立やビジネス教育のパイロット校を目指すことをうたっており、また、地域と連携した探究的な活動を充実させたいという思いも込めて、他との違いを出してビジネス探究科を原案としました。事務局としては、是非これとゴリ押しするものではありません。御意見をたくさんいただき、その中で良い学科名案が決まれば良いと考えています。ビジネス科という案も貴重な御意見として承ります。学科ごとの学級規模については、委員御指摘のとおり、事務局としても普通科4、商業科2の案を検討したこと

もございました。骨子案としては、普通科4クラスある八潮高校との統合を踏まえ、現八潮南高校の2クラスから1クラス増の3クラスに、商業科は過去の倍率等も踏まえ、4クラスを3クラスとしました。総合的に見て、普通科3、商業科3に落ち着くのではないかと考えました。

栗藤委員長 ビジネス探究科を設置している学校は、兵庫県に1校、高知県に1校あります。他にはビジネス科や総合ビジネス科、国際ビジネス科などビジネスを冠した商業科が増えています。学級規模に関して、永江委員からありました教員の配置についての御心配はごもっともですが、余り現有の教員数や配置を前提にしすぎてしまうと自由な発想を妨げてしまう恐れがあります。ひとまず教員の配置の問題は置いておき、新校に相応しい学級規模を検討していきたいと思います。令和8年度の開校までには教員の配置について教育局でしっかり対応していきます。

齋藤(八)委員 情報処理科は無くしてしまうのでしょうか。今年度も情報処理科については1.0倍を超えています。昨今の状況を見ますと、情報処理を無視してビジネスに偏ることにあまり利益を感じません。本校生徒の多くが望んでいることは、情報処理関係の技術者やそういった系統の会社に就職することです。ビジネスに寄せた商業科は定員割れを起こすと思います。商業やビジネスを学びたいから本校に来ているのではなく、単に1.0倍を超えていないからという生徒もいます。情報処理の中にビジネスの要素を盛り込むことはいくらかでも可能です。このご時世、情報処理の要素を全面的に出していった方が生徒はたくさん集まるのではないのでしょうか。3クラスになっても1.0倍超えるのではないかと思います。商業科は確かに人気がありませんので、商業の要素を引っ込めて情報処理の要素を前面に出しつつビジネス要素も含ませ、そして折衷案をとって3クラスが落とすところかなと思います。骨子案では目指す学校も完全にビジネスに寄せてしまっていると感じます。

事務局 全県的に見ても情報が付く学科の倍率は出ています。そういった点も踏まえ、学科名に情報を付けるという案もありましたが、昨年10月に策定した魅力ある県立高校づくり第2期実施方策では、情報の要素を余りうたっておりません。新校では情報をやらないというわけではないですが、社会人基礎力や株式会社の設立の要素を踏まえ、ビジネス探究科としました。中学生の興味・関心を惹くという意味では、情報の要素も必要かもしれません。

栗藤委員長 実施方策の基本方針で、これまでの商業科と違う実践型ビジネス教育のパイロット校として他との違いを打ち出しています。これまでの商業教育が比較的苦手としてきた分野に積極的に入り込んでいきたいというのが、そもそもの思いとしてあります。学びの中身についてはこれから検討していきますが、生徒にとってより良い科目設定の在り方について、別途議論していくこととなります。

古川副委員長 学科名について事務局から、流行に左右されず永く使われる学科名という説明がありましたが、探究という言葉はこの10年で一般的になりましたが、普遍性があるのかと個人的には感じています。商業やビジネスには永く使われる普遍性があると思いますが、探究は科目名としてあり、学習指導要領を通じて浸透してきたものです。学習指導要領では全ての科目で探究することを記載している一方

で、商業科の課題研究では、探究という表現は使わずに実践的なビジネス教育を実際にやっています。八潮南高校でも、やしお市民まつりにおける商品開発などで市と連携してやっています。趣旨は大賛成です。それがプロジェクト学習として教育課程の中に位置付けられるのか外に位置付けられるのか、どうでしょうか。普通科と並べると若干違和感があり、この先10年、20年耐えられるのかという一抹の不安を覚えます。探究の流行が去ってしまうのではないかと、そういった懸念を全て含めて覚悟をもってやるというのであれば、ビジネス探究科でも良いと思います。募集人員について、普通科3、商業系3というのはイメージできます。

栗藤委員長 なかなか先を見越すというのは難しいところです。〇〇探究科や探究〇〇科が全国的に設置されていることは事実です。次期学習指導要領の策定に向け、あと2年くらいで中身の検討が始まっていくかと思いますが、探究がどのような位置付けになるのか、なかなか読めません。国際バカロレアの例を挙げると、探究に相当するInquireという表現を盛んに使っています。OECDのPISAの考え方にも探究の要素がかなり入っています。そういう意味では中心的な学びとしての探究の位置付けはもう少し続くのかと考えています。それではいったんこの話はここまでにして、次に行きたいと思います。

事務局 (八潮新校基本計画骨子(案)のうち基本理念(目指す学校、育てたい生徒像)について説明)

栗藤委員長 目指す学校ウにある、自ら枠を超えて行動を起こし新たな価値を生み出していく力の醸成を目指すという表現は、文部科学省のアントレプレナーシップ教育の説明に寄せているかと思いますが、特に御意見がないようですので、次に行きたいと思いますが、また最後に御意見があれば伺いたいと思います。それでは基本姿勢と教科指導に関して事務局より説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画骨子(案)のうち基本姿勢、教科指導について説明)

栗藤委員長 社会人基礎力について、委員会のメンバーも今年度代わりましたので、改めて事務局から解説願います。

事務局 八潮南高校でも、社会人基礎力という言葉を使っていると思いますが、経済産業省が提唱しております、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つを総称して社会人基礎力と定義されています。骨子案では、目指す学校や教科指導の基本方針など随所に盛り込んでおり、また、類する表現も使っています。

栗藤委員長 偶然かもしれませんが、かつての八潮南高校の目指す学校像に、社会人基礎力という言葉が使われていました。現在も校内に掲示されているかと思いますが、新校のコンセプトにも社会人基礎力の要素を盛り込んでいきたいと考えています。教科指導については具現化で細かいところまで踏み込んでいます。最終的にはこの記載を教育課程に落とし込んでいく作業をしていくことになります。

澤田副委員長 具現化イに、ビッグデータの分析とありますが、かなり曖昧な表現かと思いますが、現在八潮高校では、データサイエンスの学びに向けて検討を進めています。これからの社会の在り方を踏まえても、ビッグデータの分析、活用などをデータサイエンス技術に置き換えても良いのではないのでしょうか。千葉大学でも、来

年4月に情報・データサイエンス学部・学科が設置されるようです。文部科学省でも普通科改革をうたっており、ビジネスの世界でも、顧客データを集めて商売につなげるということをやっています。ビジネス探究科の学びとのつながりという観点からも、普通科の特色化を図れると良いと思います。

栗藤委員長 ビッグデータの分析という表現には、科学的根拠に基づいたデータ分析や課題研究と実施方策の基本方針でうたっていることに由来するかと思います。御意見のとおり、データサイエンスという言葉が定着しつつありますので、言葉の整理をしても良いかと思います。

事務局 御意見があった具現化イには、学科横断型の探究活動という文言を入れています。これは、第1回新校準備委員会でいただいた、普通科の生徒にもビジネスに関する学びを深めてもらいたいという御意見を踏まえています。教育課程を編成していく上で、どのような選択科目を設定するかということは今後検討していくこととなりますが、普通科にも積極的にビジネスに関する学びを進めてもらいたいと考えています。

栗藤委員長 新校準備委員会で出た意見については、議事録を御確認ください。せっかく学科が2つありますので、両学科の良いところをうまく生かせないものかという御意見を踏まえて原案としています。それでは、次に行きたいと思います。生徒指導について、事務局より説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導について説明)

古川副委員長 細かいところですが、教科指導は全て主語が設置者となっていますが、生徒指導の基本方針アのみ、身に付けるということで主語が生徒になっています。趣旨はこの通りで良いと思いますが、文言については整理が必要だと思います。また、基本方針イに、透明性のある指導を行うとありますが、余り具体性がないと感じました。

栗藤委員長 事務局としてもそれなりの精度の高い文言となるよう検討してきましたが、こぼれているところもあるかもしれませんので、御指摘いただけると助かります。他に御意見がなければ次に進みたいと思います。進路指導について事務局より説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画骨子(案)のうち進路指導について説明)

土谷委員 具現化オに、学校行事等において、生徒が主体となって企画・運営するような取組を行うとありますが、進路指導というよりは生徒会活動等に分類されるのではないのでしょうか。生徒が主体となつてというのは、起業家精神につなげたいという思いからだということは理解できます。進路指導の項目に入れるのであれば、取組を行うことでどんなことを目指すのかなど文言を追加する必要があると思います。あるいは進路指導の項目とは違う項目に入れるのでしょうか。進路指導部が主導して行うことではない気がします。

栗藤委員長 確かにオだけ少し性質が異なるように受け止められます。

事務局 学校行事等という表現について、主に進路行事をイメージして作成しました。また、それだけでなく文化祭における店舗運営なども考えられます。様々な活動を

通して生徒の主体性、企画・運営する力を育てていただきたいという思いがあります。御指摘のとおり、進路指導の項目に入れることについて事務局としても悩みましたが、進路行事と明記して良いものかということもあり、丸めて学校行事等としました。文言を整理したいと思います。

栗藤委員長 岐阜県の市立岐阜商業高校が、市岐商デパートという取組をしており、そういったイメージがあったため、このような文言になったのかと思います。他に御意見がなければ、次に行きたいと思います。生徒募集について事務局より説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画骨子(案)のうち生徒募集について説明)

栗藤委員長 第1回新校基本計画検討委員会で、部活動をしっかりやっている学校が良いという御意見も出ましたが、部活動の要素については具現化ウに、課外活動等という文言に入れています。小・中学校の部活動の地域移行等、先行きが不透明なところがあり、課外活動等と表現を丸めています。新校立ち上げに際して最も注力していかなければいけないものの一つが生徒募集です。新しい学校はこんな学校ですと知ってもらわなければ、中学生に選んでもらえません。この春開校した第1期の児玉高校と飯能高校では昨年度1年間、本当に生徒募集に御尽力いただきました。その姿が将来の八潮新校の姿になると思います。

齋藤(八)委員 確認を含めてお伺いします。進路指導の項目でもありましたが、企画・運営ができるグレードの生徒をイメージしていると思います。生徒募集の項目を見ても、我々と見えている映像が違うように感じます。どの辺りの層の獲得を期待して生徒募集をしていくのでしょうか。

事務局 八潮南高校や八潮高校に現在通う層がベースになるかとは思いますが、プラスして、より目的意識の高い生徒が新校を目指してくれると良いと考えています。

栗藤委員長 難しいところです。初めに学検点やいわゆる偏差値を設定するわけではありません。新校はこういう学校ですと広報し、地域の中学生を集めることとなりますが、結果としてこの辺りの学力層の生徒が集まったと後々分析することになります。生徒募集の段階でこの層を狙うというのは正直難しいと思います。この地域の中学生を集めるということになりますと、今の八潮南高校や八潮高校を目指している中学生の相当数がマーケットになるだろうと思われれます。一方で、新校ということで新しい層が来てくれる可能性もあります。何とも言えません。アントレプレナーシップ教育が話題に上がりましたが、そういった、いわゆる学習における理解度とは違う才能が生かせるケースもあるかと思えます。意欲がある生徒が集まってくると良いと考えています。他に御意見がなければ次に行きたいと思います。その他について事務局より説明をお願いします。

事務局 (八潮新校基本計画骨子(案)のうちその他について説明)

栗藤委員長 その他については特に御意見はありませんでしたので、最後に全体を通して御意見をいただければと思います。

古川副委員長 育てたい生徒像イについて、生涯にわたり希望に満ちた人生を歩める生徒という表現が少し気になります。意図とは別に、生徒は希望に満ちた人生を送

っていないようにとられる懸念があります。そういったメッセージを県教育委員会として発信して良いものなのか。語として「生涯にわたり」は、「豊かな人生」という語に着地すると思っています。生徒にも誤解を生んでしまう可能性がありますので、文言を整理した方が良いと思います。元となっているものがあるのであれば教えてください。

事務局 八潮南高校案を採用しています。御意見を踏まえ検討していきたいと思えます。

栗藤委員長 ウェルビーイングという言葉が出始めてきており、次期学習指導要領に取り入れられるのではないかととも言われています。

古川副委員長 科学技術振興の答申等でも、最近は余り、希望に満ちた人生という表現は使われなくなったイメージがあります。

栗藤委員長 新校準備委員会でも委員から御意見をいただいております。両委員会が出た御意見を踏まえ、学校とも調整しながら事務局が教育委員会に報告する前の最終案を作成したいと考えています。本委員会の副委員長である両校教頭は、当課の主任管理主事を兼務していますので、お二人を通じて学校とやりとりし、また各課とも調整していきます。本委員会が意見をダイレクトに反映させられる機会となりますので、我々としても多くの御意見をもち帰りたいと思えます。

事務局 学科名について古川副委員長、永江委員、齋藤委員から御意見をいただきました。既に公表している実施方策や他県の例をもとに検討し、普通科とビジネス探究科を原案としてお示ししています。永江委員からは、探究はなくても良いのではないかと、ビジネス科が良いのではないかとのお話がありました。古川副委員長からは、探究という表現が普遍的なのか、普通科と並べたときに不安があるといった御意見をいただきました。齋藤委員からは、今も力がある、情報処理の要素を入れても良いといったお話がありました。学校としてこんな学科名が良いなどの御意見があれば伺いたいと思えます。学科名をどうするかというのは大事な話であり、県教育委員会としては実施方策を既に策定しているので、少なくともそこは踏まえる必要があると考えています。この場で難しいようであれば別の機会にでも御意見をいただけると有り難いと思っています。齋藤委員からは、情報処理は需要があるという御意見をいただきましたが、学習内容、教育課程の検討についてはまた別ということで御理解いただければと思います。学科名については、新校を象徴するものとして事務局としてもいろいろ悩んでいるということはお含みおきください。

栗藤委員長 事務局での検討段階では、アントレプレナーシップ科やエンタープライズ科など横文字にしてはどうだろうかなども含めいろいろなアイデアは出しましたが、原案として委員会でお示しできるところまではなかなか持っていけませんでした。ちなみに、第2期の他の新校でも、〇〇探究科という原案を出しているところはありますが、本当にそれで良いのかという思いもあります。現行の学習指導要領においては、探究活動が目玉の一つになってはいますが、古川副委員長の御意見にもあった通り、今後どうなのかということもあります。どんなアイデアでも嬉しく受け止めたいと思えます。

齋藤（八）委員 コロナ禍の影響もあってかどうか分かりませんが、中学生の状況を見ますと、親の言うことを本当に従順に聞く生徒が意外と多いです。そういった観点からしてもやはり情報処理が必要だと思います。親が家庭で情報端末から様々な情報を得たり発信したりしていて、その重要性を親が感じて子供に情報処理科に行けと言います。親にとっては分かりやすいのです。そういったこともあり、情報は1.0倍を超えてきます。情報ビジネス科やビジネス情報科もありなのではないでしょうか。また、普通科とのバランスを考えると、このご時世、ただの普通科だと面白みがないと思います。何が良いという案があるわけではありませんが、新たな層を取り込みたいのであれば検討の余地はあるのではないのでしょうか。現在も、普通科でもビジネス関係の学びができる教育課程になっていますので、体制は整っていると思います。ただの普通科ではインパクトがありません。ビジネス要素を盛り込んだ普通科の学科名にすることも可能かと思います。

栗藤委員長 事務局で検討していたことをそのまま御発言いただいたところもあります。文部科学省が打ち出している普通科改革では、学際的な学びなど一定の条件をクリアできれば新しい学科名を付けることができます。ビジネスに寄せた普通科というのもあり得ます。新校基本計画を策定するまでに話がまとまれば、普通科を違う学科名にすることも可能かと思います。

事務局 貴重な御意見をありがとうございました。また検討していきたいと思えます。

栗藤委員長 本当に建設的な御意見をいただいたところで、この場で御意見が出尽くしたようであれば、協議を閉じさせていただければと思います。よろしいでしょうか。それでは、以上で本日の協議は終了させていただきたいと思えます。御協力いただきありがとうございました。